

# 先史時代の衣類を考証

## 衣服の起源はどこにあるのか？

会員 濱手英之

先史古代の時代はわからないことだらけだ。衣服一つとってもそうである。我々は、太古の人たちの服装をほぼ裸であるか、もしくは毛皮などを着ていたのではないかと考えている。しかし、実際は相当古くから凝った衣服を身につけていたことがわかってきている。

以下にナショナルジオグラフィックから抜粋する。

衣類の起源はどこにあるのか？この問いは、単純であるがゆえにかなりの難問だ。映画や漫画などに登場する原始人は獣の毛皮を身にまとっている場合が多いが、実際はよくわかっていない。衣服を身に付ける行為は人類だけの特徴だが、その習慣が発達した経緯を解明しようという試みはまだ始まったばかりだ。

衣服が化石として残るケースはほとんどなく、骨を取り巻く軟組織と同様あっという間に朽ち果ててしまう。だが研究者たちは、染色された植物繊維や衣服に寄生していたシラミなど間接的な証拠物を手掛かりに、先史人類の服装を断片的にはあるが明らかにしつつある。

古代の服飾類で特に古い遺物には、アメリカのオレゴン州で出土した樹皮の繊維を素材とする約 8000 年前のサンダルや、エジプトの約 5000 年前のシャツやビーズ付きドレスがある。また、アルプス山中で発見された約 5300 年前のミイラ、アイスマン（エッツィ）が身に付け

ていた獣皮と干草の編み靴、毛皮の上着、皮製のゲートルや下着などが知られている。（特に、彼のつけていた毛皮のコートは、少なくとも 2 種類の皮を使用し、縞模様のデザインが施されていたらしい。彼は私と同じ 40 代であったらしいが、おしゃれにもしつかり気を使っていたようだ）だがフランス、ボルドー大学の考古学者レベッカ・ラグ・サイクス（Rebecca Wragg Sykes）氏によれば、さらに古い年代の遺物が必要で、この程度では不十分なのだという。例えば、ロシアで発見された約 2 万 8000 年前の墓をはじめ、先史時代の墓からは、衣服の装飾用と見られるビーズや歯など、当時の服飾を伺わせる遺物がわずかながら見つかった。

しかし、これらはみな被埋葬者用の衣服だ。先史時代の人々が日常生活の中でどのような衣服を身に付けていたのか、まだ明確な結論は出ていない。一方、数万年前の人類が衣服を仕立てていた間接的な証拠はいくつも存在する、とサイクス氏は話す。



縄文人の衣類(尖石遺跡縄文考古館より)

アメリカ、ジョージア州の洞窟群からは、約 3 万年前の植物繊維が見つかった。ピンクや黒、青に染められており、当時の布地作りに

関する手掛かりになるだろう。また、約2万年前の骨針も発見されているが、おそらく衣服や装飾品の縫製に使われたのだろう。

先史時代の人々を描いた想像図などでは、粗雑な毛皮を身にまとった姿が大半だ。だが考古学的資料から判断すると、2万5000年前には、既に複雑な衣服が作られていたとサイクス氏は指摘する。

ところで、先史時代の人類はわれわれホモ・サピエンスだけではない。近縁種とされるネアンデルタール人も間違いなく衣服を着ていたと考えられており、興味深い研究が行われている。

2012年、アメリカのコネティカット大学で人類学を専攻する大学院生ネイサン・ウェールズ（Nathan Wales）氏は、ネアンデルタール人が着用していた衣服について詳しい分析を試みた。ウェールズ氏はまず有史以降、狩猟採集生活を営んでいた245の文化圏に見られる服装の特徴と、それぞれの生活環境条件を調査。氷河期の間、特に寒冷な地域で暮らすネアンデルタール人は体表の80%以上を衣服で覆う一方、気候にふさわしいものではなかったという仮説を立てた。

ネアンデルタール人に比べて、現生人類は寒さに対する耐性が低い。そのため、防寒効果のある衣服を仕立て、それに身を包んで冬の寒さをしのいだと推測したのだ。その後われわれ現生人類は生き残り、ネアンデルタール人は絶滅する（身体的、文化的な観点から見た場合、ネアンデルタール人の遺伝子は現生人類に受け継がれている）。原因はいまだ不明だが、ウ

ェールズ氏は両者の服装文化の違いが何らかの影響を与えているのではないかと考えている。

原生人類にネアンデルタール人の遺伝子が混血していることが分かったのもつい最近である。解析技術の進歩で長年の謎がとかれることは、何とも好奇心がそそる。

そして、身近にも、倭文織（しずおり）、どんざ、等、消えてしまった衣料、技術は多い。新しいものの中には、なかなか新しいものはないと感じる。古いものにこそ新しいものがあると信じる。先史古代への興味はいつまでも尽きない。

**以上、主にナショナルジオグラフィックニュースより参考にしました。**

### **幻の「倭文織」体験人気 津山、染色作家ら作品展（2012/12/6の山陽新聞掲載）**



岡山県津山市の倭文地区には古代の織物を再現するグループがあり、詳しくは同誌を参照されたい。（写真をクリックするとリンク先を表示します）（ただしパソコン上のみ）